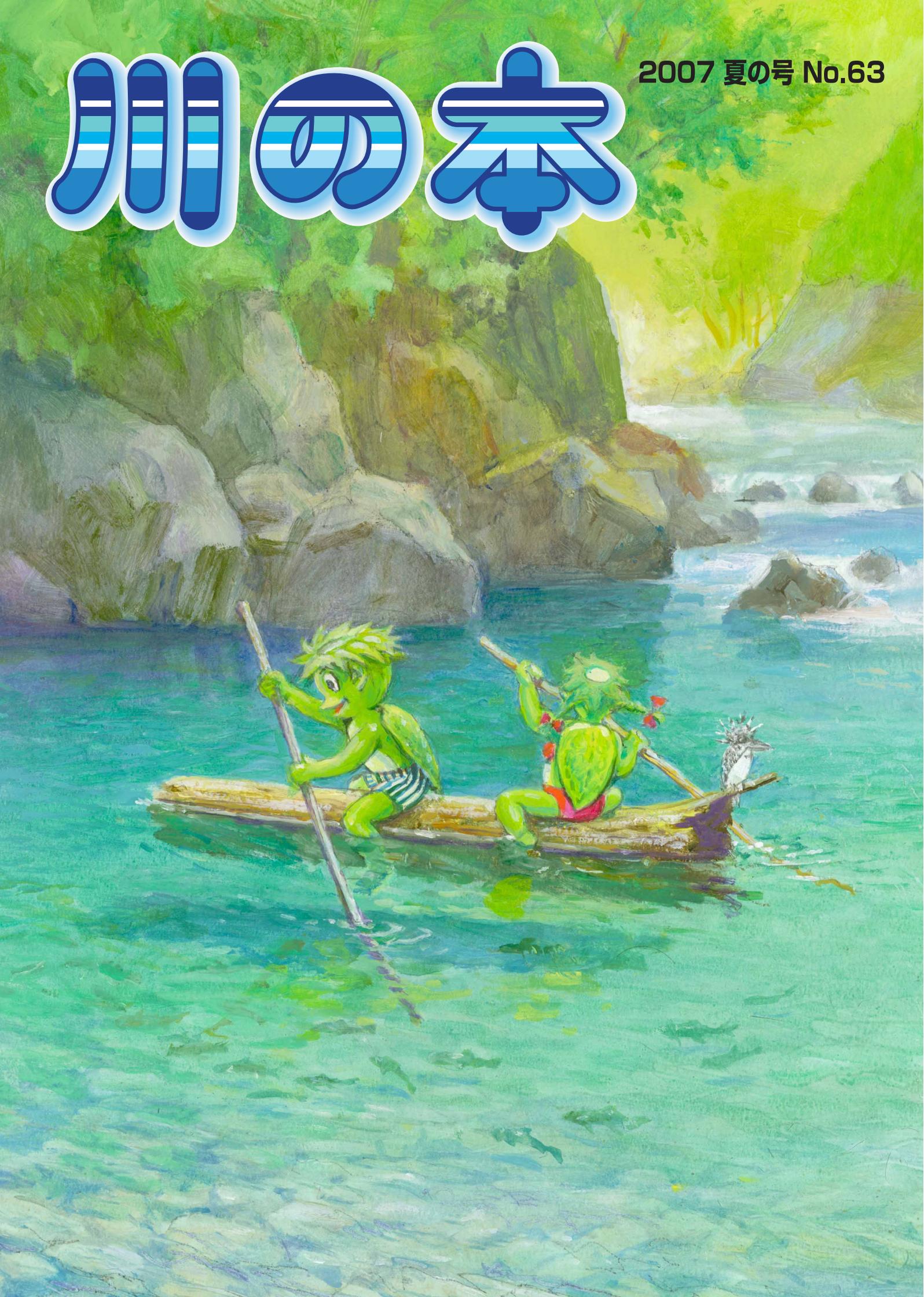


川の本

2007 夏の号 No.63



KAPPA no GAKKO

知っていますか！こんな川

昔から人々は、川の近くに住み、
暮らしに必要な水を川からとっていたんだ。
でも川は時に洪水となり家や田んぼが
流されることもあったんだ。
だから川の流れを付け替えて
洪水から暮らしを守ってきたんだ。

今の川の流れが
できるまでに、そんな苦労
があったなんて
気がつかなかったわ。
どのようにして川の流れを
付け替えたのかしら。

川の恵みを受けて
生活するために
たいへん苦労を
してきたんだ。

あたらしく
つくられた川は
それぞれ目的があるのね。
おもしろいものを紹介して。

しょうすいろう 捷水路

極端に曲がりくねった川は、流れがおそ
く洪水があふれやすくなります。そこで、
新しい人工の水路で川を真直ぐにつなぎ、
洪水が早く流れ下れるようにします。
これが捷水路です。

都市の地下ふかく
大きな川がつけられているなんて
ビックリだわ



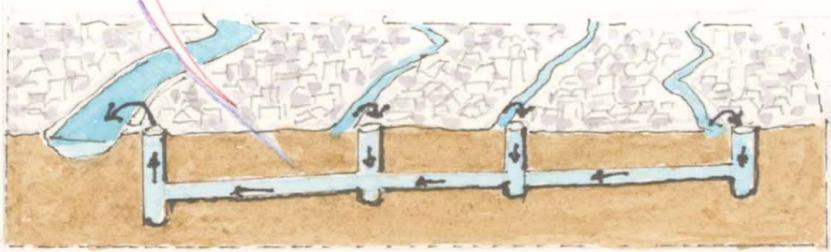
ここに水門や堰があって
分水する量を調節しています

ほうすいろう 放水路

洪水がもし川からあふれだすと大変です。
大洪水でもあふれでないようにするには
川幅を大きく広げればいいのですが、市街地
など土地に余裕がない場合では上の絵のように、
川の途中から新しい人工の水路をほって、洪水
を分けて海や別の川へ放流します。
この水路を放水路（分水路）といいます。

ちかかせん ちかほうすいろう 地下河川（地下放水路）

市街地を流れる中小の川は、集中豪雨時にはあふれやすく、
浸水被害をおこしたりします。そうさせないために、地下河川は、
洪水を地下につくった水路にためたり、水路を通して大河川に放流する
働きをします。



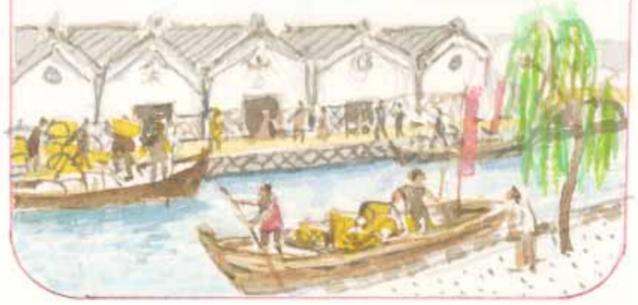
川などから、暮らしに必要な水をとるために水路（用水路）
がつくられました。これらの小さい水路で、川の水が町の中
まではこぼれ、私たちの暮らしをささえてきたのです。これ
らの水路は、それぞれどんな働きをしてきたのでしょうか。

川の流れは物を
はこぶためにも使われたのよ。
そのための川と川をつなぐ
水路もつくられたのね。



うんが 運河

●舟運といって、舟による輸送を目的にした水路は、
運河と呼ばれます。鉄道や自動車のない昔、全国各地
に掘割などと呼ばれる水路（運河）がたくさんあって
人や荷物をつんだ舟が行き交っていました。



のうぎょうようすいろう 農業用水路
●用水路の中でもっとも多いのが農業用水路です。
日本の国では大昔から、水田を広げるために人々は
用水路を掘りつづけてきました。私たちがおいしい
ごはんをたべる事ができるのはこの用水路のおかげです。

じょうすいろう 上水路（生活用水）
●飲み水など人の生活に必要な水の専用水路が上水路
です。今のような水道がなかった昔、人口が多い江戸
の暮らしをささえた玉川上水が特に有名です。火事が
多かった江戸の防火にもよりました。

こうぎょうようすいろう 工業用水路
●工場では大量の水が使われます。そのための水を川
から直接引き込む水路が工業用水路です。使ったあと
の水は浄化されたのち排水されますが、そのための水
路は、放水路または排水路といひます。

利根川と関東平野

流域面積日本一の大きな川、利根川は関東平野を流れたり千葉県の銚子から太平洋にそそいでいます。

ところが、昔は東京湾にそそいでいました。そのころの関東平野は湿地がひろがっていました。この地をよい地にするため徳川家康の命令を受けた伊奈忠次は、利根川の整理にかり、伊奈家三代も年月をかけて、東京湾にそそいでいた利根川の流れを、千葉の銚子から太平洋にそそぐように付け替えました。

このように川の整理をするなど、先人の知恵と努力のおかげで、今のような関東平野ができたのです。

天狗の鼻と象の鼻

佐賀県 嘉瀬川



むかし、嘉瀬川の上流の脊振山に天狗の兄弟がすんでおった。仲はよいのだが、なにかとつと力を競い合う悪いくせがあった。

「わしは雨を降らせることなら兄弟よりわしのほうが上じや」と弟も負けへはない。そこで二人は八つ手のうちわを振りかざし雨雲を呼びよせては、競って大雨を降らせるから大変じや。またたく間に嘉瀬川は洪水を起こし荒れ狂う水が下流の村々をおそふ、そのたび田畑や家まで流される。さらに悪い事に天狗兄弟は雨雲を吹きとばして日照り続きにし、水不足をおこして村人を困ら

「わはは、いくらがんばっても、わしらが大雨を降らせば、石積みので堤だろうがこつばみじんじや」

「ひゃあ、天狗じゃあ、おそろしか」村人たちはおどろいたが茂安は落ち着いていった。

「こんなちっぽけな鼻の天狗なんて、たいしたことななか」
「な、なんじやと、わしらをバカにしたなつ、よめく見とれ」

そう言うなり、顔を真っ赤にして自分たちの鼻を大きくふくらませはじめた。天狗の鼻はぐんぐんのびて、ぐんぐんふくらんだ。

その時じや、茂安は腰の刀を抜くが早いか、ばさつ、ばさつと天狗の鼻を斬りおとしたんじや。さすがの天狗も、鼻を斬り落とされたのでは神通力でもでない、あわてふためいて山へにげかえていった。

さて、こつと斬りとられた天狗の鼻はどうなったと思つ。茂安の指示にしたがつて村人たちは、天狗の鼻を嘉瀬川につきだすように並べた、そしてより長いほうの鼻は、まるで象の鼻のように曲げられた。二つの鼻は石でおおい、りっぱな堤になったんじやよ。村人たちはこの堤の曲げられた方を象の鼻、真直ぐな方を天狗の鼻と名づけた。さらに堤の横にも石でかためられた堰がつくられた。

この堰で堰止められた水は、天狗の鼻、象の鼻の間をとって田畑をうるおし城下の人々の暮らしの水になり、お城のお堀の水にもなった。しかも洪水から家や田畑が守られるようになったんじや。

人々は成富兵庫茂安様こそ水の神様じやとつて感謝した。そして「わしらが安心してくらせるのは、りっぱな天狗の鼻と象の鼻のおかげじや」といって大切に大切に。脊振山の天狗もこれには悪い気がしない。それから、すっかりおとなしくなつたぞうじや。

せた。困りきつた村人たちは、なすすもなく神頼みするしかない。「神様、どうか天狗どもをこらしめて、おいらの村をお助けください」神様は考えた。

「助けることはたやすいが、村人たちは神頼みするだけじや。それより自分たちの力で洪水や水不足と戦えるようにしてやらねばなるまい」と思い、一つの策をめぐらした。

神様が目をつけたのはこの土地で評判の悪がきだった。けんかや、ばくちばかりしていて親戚の中でさえ「あげん悪たれころしてしまえ」という者さえいたほどじや。しかし神様はこの少年には、みどころがあると見抜いていた。そこで神様は、この少年の心にフツと息を吹き掛けたんじやよ。いったい何のまじないだったのかのう。

さて、それから何十年が過ぎた。そのころは江戸時代というてな、今からざっと400年ほどむかしだが、あの悪がきだった少年が、なんと、成富兵庫茂安と名のる鍋島藩の高位のお侍になっておったんじや。茂安はこの地を治めるには、まず水を治めなくてはならないと考えて、領地の川の整備にとりかかっておった。もちろん嘉瀬川でも村人たちははげまして指揮をとっていたんじやよ。

「茂安様は偉いお役人じやに、威張らじゆ、おらたちの意見もきいて、いっしょに働いてくださいやるばつてん、おらも仕事に力が入るとよ」村人たちは茂安を信頼して懸命に働いておった。

それを見ておもしろくないのは天狗兄弟じや。ひとつ人間どもをおどかしてやるうと、二人そろって山からおりてきてどなつた。



大井手堰は水の流れを受けとめ流れを変え、象の鼻・天狗の鼻で水の流れをゆるやかにして土砂を沈ませ、石井樋にみちびく役目をします。



嘉瀬川の石井樋にある「天狗の鼻、ぞうの鼻」

お話に登場する成富兵庫茂安は実在した人物で、治水や利水に腕をふるい佐賀農業に繁栄をもたらした大恩人として、今でも水の神様として祀られています。

このお話は、茂安の数々の業績の中の「石井樋」をモデルに創作した新作民話です。そこには兄弟天狗が出てきますが、佐賀地方に兄弟天狗の伝説や民話はありません。民話風に話しておもしろくするために、大雨と洪水を天狗の兄弟にみだてて登場させています。

石井樋は取水施設としてつくられ、ここから多布施川を経て城下へ水を送り、あわせて洪水を軽減させる目的がありました。現在は石井樋公園として整備され、ここに、象の鼻や天狗の鼻といわれる石積の取水施設があり、現在は立派に改修のうえ保存されています。

嘉瀬川は、石井樋から上流部を別名(川上川)とも言い、さかのぼって行くと河原には大きな石がごろごろしています。かなりのあばれ川であることがわかります。流路延長は57キロメートルで一級河川としては短い方ですが、脊振山系から流れだした嘉瀬川は今も平野をつるおし、人々のくらしを支える有明海へと注いでいます。



泳いでもぐぐって川底を見る

川を知るには、体感することがいちばんだ。水の冷たさ、水のおい、流れの感じよく、なんでもの本を読んでもわからない。川にとびこんでほじめてわかる。そして川が好きになる、川と友だちになれる。

魚の気分だあ

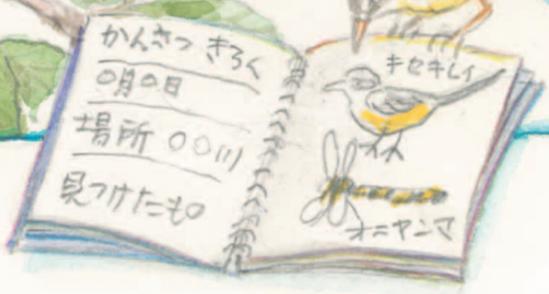


川をわたるときは
ななめ上流に向かって
歩くんだよ

むこうは
ふかいからね
気をつけてね

マナーを守れよ
きれいな自然を
よこすなよ

夏の川は
さいこうに
たのしいよ



川で見たこと
感じたこと
記録しておこう
夏休みの自由研究も
これでバッチリ

- 川へでかけるときは、できるだけ大人のひとと一緒にしよう。
- 夏の川は、きゅうに増水したりするところがあるのだから、天気予報をしっかりとらえてから出かけよう。
- ダムからの放流で急に川の水がぶえるときがある。そのときはサイレンがなったり、係りの人がしらせしてくれたりするの注意しよう。
- 川の流れば思った以上に速い。流れの速さを確認してから川にはいる。
- 川底に空きかんやガラスビンなどが落ちていてもわかりにくいから気をつけよう。
- 川にいきなり入らないで、準備体操をし、体をぬらしながらゆっくり入ろう。
- 淵などで、とびこむ時は下に人や岩がないか、よくたしかめ、大人の人に川下に立っていてもおまう。
- カヌーやゴムボートにのるときはライフジャケットをしっかりと着よう。
- キャンプするなら指定された安全な場所や水面から高いところのテントを張ろう。



ふち
淵は泳いだり、もぐったり、とびこんだりできる遊び場だ。
たのしく遊んで
淵ってどんなところが観察しよう。

ヤマヤ
川

- ・川の川で、川のあたりに行ったのが。
- ・浅瀬か淵か、魚がいたか、どんな魚だったか。
- ・深さや流れのちがひ、川底の石はどうだったか。
- ・川原の植物にはどんなものがあったか。
- ・などなど書きまわしてね。



カワトンボ (カワトンボ科カワトンボ属)

ぼくは、川^{かわ}辺のトンボだからカワトンボという。ぼくの自^じ慢^{まん}は、なんといってもオレン^いジ^{かが}色^はに輝^はく幅^は広^{ひろ}の翅^はだ。この翅^はを、ゆ^まったりとはためか^ませて川^{かわ}辺に舞^まう姿^{すがた}は、な^ゆかなか優^{ゆう}雅^がだとみんながほめてくれるんだ。

ぼくに^あいたか^かったら全^{ぜん}国^{こく}各^{かく}地^ち、平^へ地^{いち}から山^{さん}地^ちにか^かけて、きれいな水^{みづ}が^ない^{なが}も流^{なが}れる川^{かわ}のほ^たりだ^よ。ぼくはヤ^{よう}ゴ^{ちゆう} (幼^な虫^{ちゆう}) のこ^ろ、流^{なが}れのゆる^{かわ}やかな川^{かわ}岸^{ぎし}の抽^{ちゆう}水^{すい}植^{しよく}物^{ぶつ} (ヨ^かシ^わなど) や川^{かわ}底^{そこ}の水^{みづ}草^{くさ}など^にし^がみ^つい^たり、淵^{ふち}やよ^どみ^のもの^かげ^にひ^そん^でい^るんだ^よ。こ^のよ^うな^すば^らしい川^{かわ}の環^{かん}境^{きやう}があ^って^こそ、ぼ^くは^い生き^られる^んだ。



河川愛護月間

[7月1日→31日・7月7日は川の日です]

～川が好き 川にうつった空も好き～



財団 河川環境管理財団

Foundation of River & Watershed Environment Management

(〒103-0001) 東京都中央区日本橋小伝馬町11-9

住友生命日本橋小伝馬町ビル (2F・3F)

TEL (03) 5847-8302 (企画調整部)

FAX (03) 5847-8308 E-mail: info@kasen.or.jp